

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103102号		
法人名	医療法人 春風会		
事業所名	グループホーム 明和の家		
所在地	鹿児島市 明和五丁目 1番15号 (電話) 099-218-9121		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年10月14日	評価確定日	平成21年11月7日

【情報提供票より】 (平成21年8月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 2月 19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤12人 非常勤4人	常勤換算14.9人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての 1～2階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000～30,000 円	その他の経費(月額)	600 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無		有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	9名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.2歳	最低	77歳	最高	97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院	西歯科医院
---------	--------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市街地が一望できる高台に位置し、窓から見える桜島や日の出を見るのも入居者の楽しみや安らぎとなっている。母体の医療機関と医療連携体制が確立されている。歯科医や歯科衛生士の協力で口腔ケアにも重点を置いている。ユニークな行事として「昔懐かしいお店屋さん」を開催し、昔懐かしい展示品やお店を出し、昔を回想し、入居者に大好評となっている。職員は入居者や家族の意向を大切にしながら、熱意をもってチームワークで日々のケアに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員を育てる取り組みについては、資格者毎に年間研修計画を立て、内部研修を行い、職員のレベルアップに向けた取り組みがされ、改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は職員に評価の意義を説明し、各自で自己評価を行った。ケアについての考え方の視点が広がり、振り返りの契機となり自己反省ができ、向上につながった。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月ごとに会議を開催している。会議では入居者の状況や活動報告の他、地域の高齢化に伴い認知症も増えている事から、「明和地区安心ネットワーク」のメンバーも会議に出席し情報交換を行ったり、ホームでできる支援策を協議し取り組んでいる。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に、日常生活の場面を報告しながら、何でも話せるような雰囲気作りを留意している。家族会や運営推進会議の中でも意見や要望を出してもらうよう働きかけている。出された意見は、話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、回覧板を届けたり散歩時は近隣の方と挨拶を交わしたり、清掃作業に参加している。老人クラブとの交流でしめ縄作りを行ったり、小学生のサマーボランティアを受け入れる等、地域との交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中で、その人らしく暮らし続け、心安らぐ居心地の良い環境作りを支援する理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝礼で理念を唱和し、共有や理解を深め、「尊重したケア」を大切にしながら、理念の実践に向けた取り組みを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板を届けたり散歩時は近隣の方と挨拶を交わしたり、清掃作業に参加している。老人クラブとの交流でしめ縄作りを行ったり、小学生のサマーボランティアを受け入れる等、地域との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に評価の意義を説明し、各自で自己評価を行った。ケアについての考え方の視点が広がり、振り返りの契機となり自己反省ができ、向上につながった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに会議を開催している。会議では入居者の状況や活動報告の他、地域の高齢化に伴い認知症も増えていることから、「明和地区安心ネットワーク」のメンバーも会議に出席し情報交換を行ったり、ホームでできる支援策を協議し取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と入居者の状況について情報交換や相談を行いながら連携を図っている。市の介護相談員も受け入れ、サービスの質向上の取り組みを行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「明和の家新聞」を発行し、入居者毎の状況を担当職員が記入し送付し報告している。金銭管理については領収書を添付し報告して家族のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に日常生活の場面を報告しながら何でも話せるような雰囲気作りを留意している。意見箱の設置や家族会・運営推進会議の中でも意見や要望を出してもらえるよう働きかけしている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視したケアを行っている。やむを得ず異動があった場合は、入居者や家族に紹介して、信頼関係が築けるよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の機会も多い。資格者毎に年間研修計画を立て内部研修を行ったり、2ヶ月に1回テーマを決め発表することで、質の向上の取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と市のグループホーム連絡協議会に参加し、研修での交流を図っている。他グループホームの研修に職員が参加することで、職員の質の向上や問題点の解決に向けた対策の検討の参考にする等、同業者との交流を通じた向上への取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談時には、職員が自宅に出向き親睦を深めながら懇談している。本人が場の雰囲気に馴染めるようにホームを見学してもらったり、本人や家族に選択できる場面作りとして、他ホームの情報提供・見学も紹介して、安心して入居できるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸や料理・縫い物など、日常生活のあらゆる場面で人生の先輩である入居者に教わる機会を作りながら、入居者個々の得意分野を発揮してもらうなど、一緒に楽しみながら支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で表情や言動から気持ちを察したり、職員間で情報交換をしながら本人の意見を重視した支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を聞いたり、担当の職員の気づきや意見を中心に、問題点を出し合い、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に介護計画の見直しが行われている。また、毎月のモニタリングで評価を行い、状態変化に応じた随時見直しもしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 <sup>の</sup> の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、病院受診の支援や歯科受診の支援を行っている。墓参りの時、遠方で時間を要する時など、事業所が対応困難時は、法人内の他事業所との連携や協力をもらいながら柔軟に対応し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。また適切な医療が受けられるよう配慮して支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合に於ける対応に関する指針」や同意書を作成し、医療機関との連携体制がとれている。重度化した場合は再度主治医・家族・職員で話し合いをもち、「看取り介護の手順」のとおり職員で方針の共有化を図りながら過去2件看取りを行い、家族に喜ばれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、入居者のプライバシーの確保のために、職員に個人情報の保護に関する説明を行っている。入居者を常に自分自身や家族に置き換えて、自尊心を大切にされた声かけや対応の仕方を職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で業務を優先することがないように配慮しながら、入居者の体調やその日の希望に合わせて、起床・食事・散歩・外出・就寝など、本人のペースを大切に支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の提案をしてもらったり、ごますりや野菜の下ごしらえ・お盆拭きなど、個々のレベルに応じて、できる事を一緒に行いながら食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、希望者は毎日でも入浴できる。入浴をしたくない時は無理強いせず時間や対応の工夫をしながら、週3回は入浴できるよう支援している。毎日、清潔を保つ工夫もしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、パン作り・そば打ち・団子作り・梅干し漬け・園芸・裁縫・計算ドリルなど、個々の得意分野を発揮して生活を楽しめるよう支援している。特に、「昔懐かしいお店屋さん」を開催し、店に並ぶ品や食べ物抽選会は大好評で楽しみごととなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩の他、ドライブや買い物に出かけたり、近くのハートピアで外食をしている。年に数回、花見や外食を楽しむ機会も作っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに、自由な生活を支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、通報訓練・2階からの避難方法・夜間想定避難訓練などを実施している。安全対策マニュアルを作成している。地域の方にも協力要請を行っている。災害時の備蓄もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記入している。食事の摂取状況により食事形態も工夫している。法人の栄養士に献立をみてもらい専門的アドバイスをもらいながら個々に合わせた支援を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やベランダには季節の花が植えられ、裏庭には菜園がある。畳コーナーには火鉢やかまど、セイロが置かれ、階段横のスペースには入居者の手作り作品が展示されている。居間にはソファが置かれ居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ・冷蔵庫・ソファ・仏壇・写真・タンス・テーブル・椅子・学習机・文庫本などが持ち込まれ、手作りの表札もある。個性的で本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。